

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月10日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520050

研究課題名（和文）術数書の基礎的文献学的研究

研究課題名（英文）A Basic and Philological Study of Shu-shu（術数）

研究代表者

三浦 國雄（MIURA KUNIO）

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：60027555

研究成果の概要（和文）：本研究は、術数学の基礎研究として主要術数書の文献解題を行なうものである。すでに平成17・18年度の第一期研究において研究報告『主要術数文献解題』を刊行し、平成19・20年度の第二期研究においてその続編を刊行し、今回の平成21・22・23年度の第三期研究（最終期）では、本年3月末に第三編を刊行済みである。

研究成果の概要（英文）：Our aim of this study is to make a bibliography about important books of Shu-shu（術数）. We already published the bibliography in the year 2005, 2006, and published its sequel in the year 2007, 2008, and the third edition is complete in this March of the year 2012.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・中国哲学

キーワード：占術

## 1. 研究開始当初の背景

術数は、中国思想や中国文化、地域で云えば、日本、沖縄（琉球）、朝鮮、ベトナムに及ぶ漢字文化圏の重要な〈知〉であり〈文化〉であったにもかかわらず、これまで中国思想と中国科学技術史の谷間に置かれてなおざりにされてきた。中国思想史家は、漢代において経学と密接に繋がっていたことは評価するものの、宋代以降、民衆化・世俗化した術数にはあまり関心を払わないし、科学史家は、そこに含まれる〈数〉は重視するものの、もう一方の柱である〈占〉は敬遠してきた。本研究はそうした現状を打破すべく、文献サ

イドから術数学を再構築しようとした試みであった。

かくして第一期（2年）、第二期（2年）を経て、第三期（3年）に至ったのである。本第三期では、第一期、第二期研究で扱えなかった朝鮮を新たに加え、研究の一層の充実をはかった。

## 2. 研究の目的

「術数学」なるものは、わが国の中国学界ではまだ認知されているとは云いがたく、研究が立ち遅れているので、まず基礎研究として多彩な文献の解題の提供を目指した。

### 3. 研究の方法

「研究課題名」が示しているように、本研究は術数の基礎文献の解題を目指しているため、可能な限り内外の所蔵機関に足を運び、現物を手に取ってその書誌情報を正確に把握するのがその基本的な方法である。

思い起こせば、そろっての訪書行は、第一期初年度の、平成17年6月、彦根博物館・琴堂文庫が最初であった。当文庫は知る人ぞ知る、井伊直弼の曾孫・井伊直愛氏珍藏の、仏典、謡曲、易占を中心にした特異なコレクションで、もとより術数学にとっても資料の宝庫である。次に赴いたのは沖縄であった。当地には主として家文書という形で術数文献が豊富に残されているが、それまで山里と三浦が手掛けていたものの、メンバー共通の認識に至っていなかったため、第一期の平成17年12月、浦添図書館、石垣市立図書館、八重山博物館で調査を実施した。第一期の2年目には、本家の中国大陸に渡航し、福建省の四堡（清代、術数書を含む通俗書出版で栄えた村）と安徽省屯溪一带（徽商の故里）において文献調査と収集を行った（平成18年8月）。

第二期は、大野裕司氏を新たなメンバーに加え、出土文献も視野に収めて、術数学の源流を探るとともに、第一期でとりあげられなかった各種文献を論じて第一期成果報告書の拡充と補充を図った。この時期の最大の行事はベトナム調査行であった。主たる訪問先はハンノム研究所（ハノイ）で、それぞれの専門分野に応じた調査を行った。風水書・歴史書・通書・相人書などのジャンルにおいて、中国の術数書の導入とそのベトナム化を確認することができた。個人としては、三浦は東国大学図書館、国立中央図書館（以上、韓国）、山里は、石垣市史編纂室、久米島自然文化センター（現・久米島博物館）、八重山博物館、宮崎は、東京大学東洋文化研究所、故宫博物院文献所、国家図書館（以上、台湾）、奈良場は、真福寺・大須文庫（名古屋）、慶應義塾大学・斯道文庫、大野は、当時研修先の清華大学（北京）などにおいて、それぞれ活発な調査研究活動を行った。

本第三期では、これまでの研究を継承しつつ、東アジアにおける術数の全体像を探るべく、新たに朝鮮の術数書（学）に重点を置くことにして、藤本幸夫氏と白井順氏を新メンバーに加えた。メンバーは引き続いて調査研究を精力的に行ったが、3年計画の2年目に韓国でのシンポジウムに参加し、韓国の術数研究者と意見交換したことが本期最大の収穫になった。そもそも術数なるものは本来、経学を中心とした中国の学術と表裏一体の基礎学であって、それが一方で科学的思考へと展開し、一方で周縁化・通俗化していったと考えられるのであるが、設定を拡大して中

国を中心に据え、その光被に浴した辺縁諸国の文化のありようを眺めた場合、沖縄（琉球）であれ、ベトナムであれ、術数の位置は本国以上に高く、その受容と変容に殊の外、熱心であったという感触を私たちはこれまでの調査から得ている。多少朝鮮学を嚙ってきた私（三浦）個人としては、なかでも韓国＝朝鮮は歴史的にも資料的にも〈術数大国〉なのではないかと考えてきた。この第三期に軸足を韓国＝朝鮮に置き、東アジアへと視野を拡大したのもそのためであった。

シンポジウムは2010（平成22）年8月、「東アジア術数知識の交流と伝播」と題されて、韓国＝朝鮮学の殿堂というべきソウル大学校・奎章閣・韓国学研究院において公開形式で開催された。ここでは、民間の俗学でもあった〈術数学〉なるものが韓国の学界で認知されつつあるということと、あらためて韓国＝朝鮮における術数浸透の広さと深さを感じたということ以外に、シンポジウムの模様を詳しく伝えられないのであるが、とりあえずここでは、日本側の発表者と発表題を記しておく。すべて本科研のメンバーである。なお、両国の発表者の発表内容は、当日日韓両国語に翻訳された立派な冊子（予稿集）として参加者・聴衆に配布された。

三浦國雄「術数学の基本認識」

宮崎順子「ベトナムの風水書『安南風水』の地脈説」

奈良場勝「江戸時代の易占の展開」

大野裕司「出土文献の現状と課題」

### 4. 研究成果

全三期とも、それぞれ百頁を越える報告書を刊行することができた。この研究活動と並行して本邦の学界でも術数学が活性化してきた。これは我々の研究の影響とまでは言えないにしても、我々の研究が多少の刺激になったはずである。

この第三期の研究成果は、すでに述べたように研究報告書『術数書の基礎的文献学的研究—主要術数文献解題 第三編』（総135頁）として、2012年3月末に刊行済みである。詳しくはその報告書に就いて見られたいが、ここでは、目次を掲載しておく。

#### 目次

刊行に当たって（三浦國雄）  
解題書細目（附：解題予定リスト）

#### 第一部 総論

1. 術数研究史—出土資料との関連から見た回顧と展望—（大野裕司）
2. 詩訣占について（奈良場勝）

#### 第二部 文献解題

- 1, 出土術数書解題 (大野裕司)
- 2, 易占書解題(奈良場勝)
- 3, 風水書解題 (宮崎順子)
- 4, 相人書解題 (三浦國雄)
- 5, 沖縄の術数文献 (山里純一)
- 6, 朝鮮の術数書解題 (白井順)

次に、本報告書で取り上げられた書(文献)のリストを掲げておく。

- 1, 出土術数書 (大野裕司)
  - I. 天文
    - 1 馬王堆漢墓帛書・五星占
    - 2 江陵王家台秦簡・災異占
  - II. 五行
    - 3 天水放馬灘秦簡・日書(甲種・乙種)
    - 4 荊州閔沮周家台秦簡・日書
    - 5 隨州孔家坡漢簡・日書
    - 6 尹湾漢墓木牘・神龜占
    - 7 尹湾漢墓木牘・博局占
    - 8 尹湾漢簡・刑德行時
- 2, 易占書 (奈良場勝)
  - I. 詩訣占
    - 1 河洛理数
    - 2 占例
  - II. 八卦占期
    - 3 本卦聞書極秘伝
    - 4 天門八卦鈔
    - 5 増補新撰陰陽八卦鈔
    - 6 男女一代八卦
- 3, 風水書 (宮崎順子)
  - 1 改良陽宅大成
- 4, 相人書 (三浦國雄)
  - 1 麻衣相法
  - 2 人相編
  - 3 神宗全編 附神相全編正義・神心論・相学發揮
- 5, 沖縄の術数文献 (山里純一)
  - I. 風水書
    - 1 風水書 (新城鉄太郎家文書)
    - 2 風水記 (町田家文書)
    - 3 風水巡検記 (喜舎場英勝家文書)
  - II. 歴書・通書
    - 4 日選書 (仮題) (安次嶺家文書)
    - 5 通書 (仮題) (安次嶺家文書)
    - 6 日選書 (仮題) (西江家文書)
    - 7 日和見 (新城鉄太郎家文書)
    - 8 通書 (仮題) (座喜味家文書)
    - 9 通書 (喜友名盛芳筆写)
    - 10 諺文家庭宝鑑 (吉浜智改文書)
- 6, 朝鮮の術数書 (白井順)
  - 1 天機大要

以上の成果を踏まえつつ、今後の展望を記しておく。以下は、本報告書所載の大野裕司による「回顧と展望」(第一部 総論)からの転載である。

#### 一、伝世術数書の文献学的研究

まずはやはり最大の問題としては、従来、伝世術数書の文献学的研究が少ない点が挙げられる。本科研費による解題の作成がかかる問題の解決の端緒になることを願う。

#### 二、定義問題

「術数」という概念をめぐる論叢は、従来、図書目録の区分を根拠とする目録学的方法論によって研究が進められてきた。今後術数書の文献学的研究が進むことにより、これまでより術数の内実即ち定義を与えることができるのではないだろうか。例えば、戦国秦漢の出土文献に限る話ではあるが、劉樂賢氏は、兵陰陽書と術数書との区分という問題点から術数についての定義問題に言及しているが、それはこれまでの氏の出土術数書理解を反映したものとなっており、古代の術数定義を考える上で必ず参照すべき論考となっている。今後はこのように、各時代ごとにより綿密に、そしてその時代の術数書(の記述)に即して術数という概念を捉え直していかなければならないのではなかろうか。

#### 三、術数の歴史的伝承の研究

従来は出土、伝世の文献を問わず、文献毎の個別研究が多かったが、今後はそれらの間の伝承関係を検討する必要がある。出土戦国秦漢術数書、敦煌遺書術数書、伝世術数書そして日本の術数書、それぞれの分野で研究が深まってきてはいるものの、それらの研究間で連絡があまり密でないのが現状であろう。よって今後は各個ばらばらに研究を進めるのではなく、共同研究を開催し、研究者間の協力体制を敷く必要があるのではないかと思う。

例えば、上述した、劉樂賢(森和訳)「出土文献と日本の陰陽道文献」はその名の通り戦国秦漢時代の出土術数書と日本の陰陽道書との関係性を考察したものであるが、時代の近さを考えれば、むしろ敦煌遺書中の術数書との比較こそ行われるべきである。今後、敦煌遺書研究者と陰陽道研究者とが協力して研究を行えば、より研究が進展するであろうことが予想される。

#### 四、工具書の充実

現在、術数専門の工具書としては、陳永正主編『中国方術大辞典』(中山大学出版社、1991年)と袁樹珊『中国歴代ト人伝』(新文豊出版社、1998年)くらいしか存在しないの

が現状である。このことが研究の進展を阻んでいるのではないだろうか。本報告書も工具書として役立つものになるかと思う。また、日本語読者に向けての日本語による術数概説書が存在しない点も研究がなかなか進展しない原因の一つであろう。

#### 五、アマチュア研究の調査・吸収

本稿では、所謂研究者以外が執筆した研究には言及していない。しかしながら日・中・台・韓で現地で占いを実践している占い師らによってなされた研究が大量に存在している。しかしながらかかる研究は、大学図書館などで収集されていないものも多く、また研究者がこれまで視野に入れてこなかったということもあり、データとして纏まっておらず、利用が困難な状況にある。よって今後はアマチュア研究の調査、発掘を行い、その研究成果を適切に利用して術数学の進展の資とできるようにしなければならない。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 三浦國雄「朱子家礼との距離—稲葉黙斎「内・外艱記」を読む—」、『東アジア文化交渉研究』開設記念号, P. 181-191. 2012年、査読無。
- ② 藤本幸夫「Old Korean Books in Japan」, 『MEMOIRS OF THE RESERCH DEPARTMENT OF THE TOYO BUNKO』, 69, P. 1-17, 2012年、査読無。
- ③ 藤本幸夫「蓬左文庫蔵駿河御讓本朝鮮本の〈御抄〉に就いて」, 『武家の文物と源氏物語絵—尾張徳川家伝来品を起点として—』, p. 116-135, 2012年、査読無。
- ④ 山里純一「久米島〈堂のひや〉の天気見様について」, 『人間科学』27号, P83-116頁, 2011年、査読無。
- ⑤ 三浦國雄「Heaven in Taoism: With a focus on the Celestial Thearch in the Early way of the Celestial Master」, 『ACTA ASIATICA 98』, P. 99-123, 2010年、査読無。
- ⑥ 山里純一「琉球王府の雨乞い儀礼」, 『International Journal of Okinawa studies』2巻, P. 15-30, 2010年、査読有。

[学会発表] (計1件)

- ① 三浦國雄「術数学の基本認識」, 韓国ソウル大学校人文韓国事業団第7回 HK Workshop, 2010年8月11日, ソウル大学校奎章閣韓国学研究院。

[図書] (計1件)

- ① 三浦國雄『易经』, 角川書店, 総250頁, 2010年。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

三浦國雄 (MIURA KUNIO)  
大東文化大学・文学部・教授  
研究者番号: 60027555

##### (2) 研究分担者

山里純一 (YAMAZATO JYUNICHI)  
琉球大学・法文学部・教授  
研究者番号: 50166659

藤本幸夫 (FUJIMOTO YUKIO)  
麗澤大学・言語教育研究科・教授  
研究者番号: 70093458

##### (3) 研究協力者

奈良場 勝 (NARABA MASARU)  
暁星高等学校・教諭

宮崎順子 (MIYAZAKI YORIKO)  
関西大学・外国語学部・非常勤講師

大野裕司 (OONO HIROSI)  
日本学術振興会海外特別研究員, 台湾大学客員研究員  
研究者番号: 90582726

白井 順 (SIRAI JYUN)  
学習院大学東洋文化研究所客員研究員,  
ソウル大学校奎章閣韓国学研究院客員  
研究員  
研究者番号 : 20534689